

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

何事にも誠実に取り組み、創意を凝らし未来づくりのプロとして社会で活躍する人材を育てる。
1. 技術を身に付け、資格の習得によって社会を支える人材を育成する。
2. 「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」としての社会人基礎力を育成する。
3. 授業力の向上をはじめとする教員の資質向上と組織力の向上に努める。

2 中期的目標

1. 「確かな学力」を育成し、社会を支える技術・資格の習得を促す
(1)技術・技能の習得をめざした専門教育の充実を図るとともに、基礎学力の定着に取り組む。 ア.資格取得・検定合格に向けての指導を充実させ、取得者数・合格者数を増加させる。また、上級資格への挑戦にも取り組ませる。 イ.各科で「課題研究」「実習」等の授業内容について検討し、PBLやSTEAM教育など新たな授業内容の研究や実践を行うとともに、伝統技術の継承やプレゼンテーション能力の向上に積極的に取り組む。 ウ.わかる授業の実践、並びに資格取得支援に向けて、全教科で1人1台端末を含めICTを効果的に活用した授業・補習に取り組む。
(2)学年に応じた進路指導の更なる充実を図り、学校紹介による就職内定率100%の保持をめざす。[R1-100%・R2-100%・R3-100%] また、進学希望者に対しても大学・短大・専門学校等の関係機関との連携を図り、キャリア教育の充実に取り組む。 ア.個に応じた進路保障の実現に向け、3年間を見据えたキャリア教育充実を図る。 イ.就職1次内定率を85%以上とする。[R1-89%・R2-75%・R3-83%]
2. 社会人基礎力を育成する。
(1)社会人としての基本的生活習慣を身に付けさせ、あらゆる教育活動を通して社会規範を守ることの重要性を理解させる。 ア.「遅刻者0の日」の達成をめざす。(R1 0日、 R2 0日 R3 0日) イ.挨拶の励行、マナーの遵守、頭髮・服装などの身だしなみ指導を全職員で徹底する。 ウ.規範意識の向上を図るとともに、公共心の育成に努め問題行動の未然防止に取り組む。
(2)生徒会活動や部活動を活性化させ、生徒が学校生活に積極的に取り組むことにより主体性を育成する。 ア.部活動を奨励する。 イ.学校行事の活性化に向けて生徒会活動を充実させるための取組みを進める。
(3)健康についての正しい知識を持ち、食育を含めた自己管理ができる生徒の育成をする。 ア.身体測定、健康診断を通じて健康の保持・増進について関心を持たせる。 イ.健康相談や委員会活動等を通じて生徒の基本的生活習慣の確立を支援する。
(4)いじめ防止基本方針のもと、いじめの認知と解消、未然防止に努める。 ア.全教職員が生徒の情報を共有し、生徒に寄り添いながら生徒指導に取り組む。 イ.命の大切さを理解させるとともに人権教育の更なる充実を図る。
3. 教員の資質向上と学校の組織力の向上に努める。
(1)授業力の向上をはかる。 ア.全教職員で生徒の情報を共有し、共通理解のもとに基礎学力の定着、並びにPBL、STEAM教育等、新たな学習指導の取組を実践する。 イ.緊急時に充実したオンライン授業を実施可能とするため、1人1台端末等、ICTを活用した授業に取り組む。 ウ.教材開発や習熟度による丁寧な指導により、わかる授業の実践に取り組み、原級留置者及び中途退学者の減少に努める。 (R1原級留置者5名 中途退学者17名 R2原級留置者5名 中途退学者17名 R3 原級留置者5名 中途退学者22名)
(2)各専門機関との連携を図り教育力を高める。 ア.スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーターとの連携を強化する。 イ.生徒の状況把握に努め、個に応じた指導を行う。 ウ.支援を要する生徒の把握に努め、必要に応じて個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、全教職員で情報の共有を図る。
(3)教職員の緊急対応能力、危機管理意識の向上を図る。 ア.教職員の意識・能力を向上させるため、普通救命講習等を年1回以上行い「緊急時に速やかに対応することができる」の項目の回答が80%以上とする。
4. 開かれた学校づくり
(1)学校運営体制の確立 ア.働き方改革の取り組みとして会議時間の短縮をおこなう。まだDXを進める。 イ.個人情報の適切な管理を徹底し、個人情報の不適切な取り扱いを0件とする。
(2)地域との連携 ア.近隣企業と連携をはかる。 イ.学校の魅力や教育内容の情報発信をおこなう。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R3年度値〕	自己評価
1. 「確かな学力」を育成し、社会を支える技術・資格の習得を促す	(1) 確かな学力の育成をはかる。 (2) 検定・資格取得を推進する。 (3) キャリア教育を充実させる。	(1) ・基礎学習を活用し確かな学力の基礎とする。 ・基礎学習担当者間での生徒の学習状況の情報を共有の内容について再検討をおこなう。 ・1人1台端末の活用を全教科で推進する。 (2) ・資格取得・検定合格への対策を立て、取得・合格へ向けての生徒の意識を高め、資格取得を希望する生徒に対して受験対策を行う。 (3) ・ガイダンスの充実やインターンシップへの参加人数を昨年度より増加させる。	(1) ・「授業の内容がよくわかる」の肯定的回答が80%以上とする。〔R3-76%〕 ・2学期末での欠点保有率30%以下とする。〔R3-35%〕 ・1人1台端末を用いた家庭学習課題を各教科1学期中に1週間分を作成する。 (2) ・ジュニアマイスター取得者数をR3年度より増加させる。〔R3-5名〕 (3) ・学校紹介の就職内定率100%を維持する。〔R3-100%〕 ・「将来の進路や生き方について考える機会が多い」の肯定的回答が85%以上とする。〔R3-83%〕	
2. 社会人基礎力を育成する。	(1) 規範意識の向上 (2) 学校生活の活性化 (3) いじめ対策の推進	(1) ・生活リズムを整えるために遅刻指導を重点的に行う。 (2) ・部活動の活性化のため、活動内容のホームページでの紹介や成績の伝達など活動内容を学校全体で共有する。 ・生徒会を中心として、体育祭等の学校行事への主体的な参加を促進する。 (3) ・いじめについての意識を向上させるため「いじめについて考える日」を設定する。	(1) ・遅刻者を昨年度の80%とする。〔R3-1436名〕 ・学校や地域でよく挨拶をしている」「ルールを守って学校生活を送っている」の肯定的回答をそれぞれ83%、93%以上とする。〔R3-81%・R3-91%〕 (2) ・「積極的に部活動に参加している」「学校や学年行事に積極的に参加している」の肯定的回答を65%、85%以上とする。〔R3-63%・R3-81%〕 (3) ・いじめについて朝礼での生徒向け講話や人権に関するLHRや教職員研修をおこなう。	
3. 教員の資質向上と	(1) 授業力の向上	(1) ・教科を越え、授業の相互見学・公開授業を行い、教育内容、教授方法や観点別評価の改善に繋げる。	(1) ・学期毎に2回以上相互見学・公開授業各教科1回	

府立泉尾工業高等学校

学校の組織力の向上に努める。	(2) 専門機関との連携 (3) 新型コロナウイルス対応と危機管理	(2) ・サポートの必要な生徒に対しては、SC や SSW をはじめ専門機関と連携して教育をすすめる。 (3) 臨時休校に対応できるように 1 人 1 台端末を利用した教育活動を研究する。	以上実施する。 (2) ・関係会議を毎月行い情報共有する。 (3) 1 学期中に全教科で 2 回以上平常時にオンライン学習の試行を行う。	
4. 開かれた学校づくり	(1) 学校運営体制の確立 (2) 地域連携	(1) ・業務改善の 1 つとして、事前に校内ネットワークに内容を掲載することによって校内会議の時間を短縮する。委員会等についても見直しを行いスリム化する。 ・保護者向け文書のデジタル化をおこなう。 (2) ・教育内容をホームページ等で積極的に掲載する。 ・近隣学校との連携をはかる。	(1) ・会議の時間を 1 時間以内とする。 1 時間をこえる会議を全体の 5 % 以下とする。 ・校内委員会を削減する。 ・保護者プリントの 50% 以上をメールによる連絡に置き換える。 (2) ・各教科の授業の様子、各行事について毎月掲載する。 ・近隣学校を対象とした出前授業や見学会を年 5 回実施する。	